みつかる。つながる。よくなっていく。

毎月10日発行　第836号（通巻1340号）

東京YMCA

10
2026

創立1880年
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館６階
Tel　03-6302-1960
URL　http://tokyo.ymca.or.jp
発行所　公益財団法人
東京ＹＭＣＡ
発行人　星野太郎

東京ＹＭＣＡの使命　東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

この夏の経験は一生の宝物
YMCAが大切にする子どもたちの未来



野外教育・ユース
MD　鳩山徹郎

今夏も、野尻キャンプと山中湖センターで、多くのキャンプが実施されました。幼児から中高生までを対象としたキャンプ10コースを実施し、487人の子どもたちが参加。多くの子どもたちが豊かな体験を重ねることができたことを、心より嬉しく思います。インターネットの急速な普及やSNSの広がり、近年のAIの台頭により、私たちの生活や物事の捉え方は大きく変化しました。便利さが増した一方で、直接的な体験や人との関わりが減少し、自ら考え、行動するための創造力を養う機会も少なくなっています。

キャンプには、いわゆる「正解」はありません。だからこそ、挑戦し、失敗し、考え、工夫しながら、自分なりの答えを導き出す体験が生まれます。未来を力強く生きていくための力や価値観を育む場として、キャンプの必要性を確信しています。

この夏も多くの子どもたちがキャンプや水泳教室、語学プログラムに参加しました。いつもとは違う環境で、新しい仲間と共に過ごす中で、子どもたちはさまざまな経験を重ねました。その一つひとつが、子どもたちの力になり、未来へ続く一歩となります。



山手ウエルネス
AD　安保伸江

健康教育（ウエルネス事業部）ではこの夏、3センター*で短期水泳教室24コースとプールサマースクールを実施し、延べ566人の子どもたちが、仲間やリーダーとともに楽しく泳ぎ、それぞれの目標に挑戦しました。活動を支えたのは、スタッフと60人の学生リーダーたちです。

また、通常クラスの子どもたち延べ58人が「全国YMCA少年少女水泳大会」をはじめ、2つの水泳大会に参加し、50mプールで日頃の練習の成果を発揮しました。この夏のさまざまな経験や出会いが、子どもたちの心に残り、また次の一歩へとつながる力になればと願っています。

*山手・東陽町・品川御殿山

山手センター　サマースクール参加

◆小学1年生
ぼくはサマースクールでまいにちプールにはいれてたのしかったです。みんなでおべんとうをたべたり、まんげきょうをつくったりしました。
やさしいリーダーやあたらしいおともだちもできて、まいにちわくわくしました。

江東センター　「海キャンプ」参加

◆小学4年生
「仲間といる大切さ」に気づきました。大好きな仲間といることで、ドキドキからわくわくな気持ちになりました。
キャンプのテーマが「よっ！おとなりさん」だったので、他のグループと歌ったり、キャンドルファイヤーをして、とても温かい気持ちになりました。



東陽町　語学プログラム参加

◆中学1年生
1日アメリカ留学体験プログラム「Big Day Out」に初めて参加しました。最初はとても緊張しましたが、アメリカの高校生の人たちはみんな親しみやすく、話す内容がすごく面白くて笑ってしまいました。ランチやゲームで交流しながら、とても仲良くなれて嬉しかったです。来年も参加してたくさんの友だちを作りたいです。

野外教育・ユース　サマーキャンプ参加

◆ボランティアリーダー
青木隼士（サンダー）
この夏のキャンプで最も印象に残っていることは、共に生活する仲間と一緒に挑戦してみようとする子どもたちの姿です。初めは怖くてできなかったことにも、励まし合い、助け合いながら進む様子に感動しました。
また、リーダーとして、子どもたちが安全に、楽しく過ごせる環境をつくることの大切さも学びました。子どもたちだけでなく、リーダー同士も支え合いながら共に成長できることは、ＹＭＣＡキャンプの大きな魅力だと思います。この夏の経験を冬や春のキャンプ、定例活動にも活かしていきたいと思います。

◆ボランティアリーダー
千野結凪（なごん）
野尻小学生キャンプに参加しました。初日は緊張していた子どもたちが、キャンプを全力で楽しみ、ときには真剣に悩みながら、一人ひとり大きく変化していく姿を目の当たりにしたことは、リーダーとしても貴重な機会でした。
仲間と励まし合い、挑戦する子どもたちを見て、自分自身も多くのことを気づかされました。
リーダーとして子どもたちを導く存在でありながらも、一緒に考え、悩み、模索しながら成長していくことができるのは、ＹＭＣＡキャンプならではの大切な体験だと感じています。

◆小学2年生保護者
年少の時からキャンプ後に急成長する娘。
今年は苦手を克服し、「みんな一緒に海で浮いたんだ～！」と嬉しそうに話す姿に感動しました。みんなで歌ったキャンプソング、一緒に観た三浦海岸の花火も全て宝物です。

◆ボランティアリーダー
金城　光（ぴか）
海キャンプに参加して、海に入る勇気がなかった子が、友だちの助けを借りて勇気を出して海に入っていたり、少し歩くのが遅い子の荷物を持ってあげたり、みんなで楽しもうとするその姿に、子どもたちの優しさや思いやりを感じ、印象に残る楽しいキャンプでした。

「外国にルーツのある子どもたちのためのサマーキャンプ」（@山中湖センター）に参加した子どもより。イラストにも絵日記にもワクワクがあふれる、思い出いっぱいの時間に。

◆小学5年生





赤▽三角

ボランティアリーダーをしていたご縁で、数年前よりナースとしてキャンプに参加しています。大自然の中での生活は、心身に様々な変化をもたらします。子どもたちの不安を取り除きながら、注意深く経過をみていくのがナースの役割だと思っていますが、そこにはリーダーの存在が欠かせません。リーダーたちはこの夏もとても素敵な関わりをしてくれました。▼「ホームシックの子に『さびしいよね』と、ひたすら寄り添う」「おねしょをした子をサッと着替えさせ、手早く布団を交換し、大丈夫だよと声をかける」「泣いて動けない子に『あそこの木まで行けたら、次は泣かない自分になろう。いくぞー！』と伴走する」「『帰りたい』と話す中学生に、一時間も隣で話を聴く」そんなリーダーたちの力に支えられ、子どもたちは本来の力を発揮することができるのです。その姿に毎回震えるような感動を覚えます。▼たった一回のキャンプが、その子にとって一生の糧になることがあります。いただいたご縁に深く感謝し、子どもたちが安心して楽しく過ごせるキャンプのために、これからもよりよい関わりを模索していきたいと思っております。

（会員　渡辺美彩子）

職員をリレー派遣
避難所運営サポート
熊本地震被災地支援





八代城築城ゆかりの碑も崩れる

7月28日に発生した「熊本地震」を受け、東京YMCAでは翌日から情報収集と募金の準備を始め、30日には支援募金を開始しました。8月には都内5か所で街頭募金も実施し、現在、1,000万円近い支援が寄せられています。

発災から約1週間後には職員を現地へ派遣し、熊本YMCAとともに被災地域の状況を調査。その後、熊本YMCAが八代市から受託した2か所の避難所運営を支えるため、全国のYMCAと連携して職員のリレー派遣を続けています。東京YMCAからの派遣は、予定を含め10月2日現在で23人、延べ169日にのぼります。

発災から2か月余り。必要な支援は、時間の経過とともに変化しています。ここでは、現地で避難所運営にあたった職員から、その様子と支援を通して見えてきたことを報告します。

「その人のためになるか」考え動く

広報室　AD　中元美佳

8月16日から19日まで、熊本YMCAが八代市から運営を受託した避難所の一つ、八代トヨオカ地建アリーナで、全国のYMCA職員と支援にあたりました。

避難所で生活していたのは約300人。避難生活の疲れが重なり、体調を崩す人も増えていました。「自宅に戻ると地震の恐怖を思い出してしまう」と話す方もいて、建物やライフラインが復旧しても、すぐには元の暮らしに戻れないことを実感しました。

地震の直後から避難所を支えてきた八代市職員の疲労も深刻でした。24時間体制で避難所を運営しながら、通常業務にもあたる日々。熊本YMCAが避難所運営を引き継ぐことは、避難している人々の生活を支えるとともに、長期間にわたって現場を担われた市職員の負担を軽減する意味もあります。

◇◇◇

運営の引き継ぎにあたっては、八代市職員をはじめ、他自治体からの応援職員、医療・福祉などの支援団体から、それぞれの役割や現場で感じている課題を聞きました。立場や役割が異なれば、支援に対する考えや優先したいことも異なります。その一つひとつに耳を傾けながら、「避難している方々にとって何が一番よいのか」を考え、異なる立場の人たちの間をつないでいくことも、避難所運営を担うYMCAの重要な役割だと感じました。

これから派遣される全国のYMCA職員がスムーズに支援に入れるよう、業務内容を整理し、マニュアルも作成しました。しかし、派遣を終えて間もなく、避難所内の体育館の使用方法や物資管理の業務も変更になったと聞きました。そこで改めて思い出したのが、熊本YMCA職員の「判断基準は、避難している方たちのためになるかどうか」という言葉です。支援業務の大枠を把握しながら、この基準に立ち返り、状況に合わせてその時どきに必要な行動を考える。その考えをともに働く仲間と共有する。それが、細かな手順を決めること以上に大切ではないかと思いました。

◇◇◇

熊本への派遣を通して感じたのは、災害支援の場であっても、YMCAが大切にすることは日々の働きと変わらないということです。目の前の一人ひとりに目を向け、その声に耳を傾け、その人にとって何が必要なのかを考える。全国のYMCA職員も同じ思いを持って支援にあたっていました。

これまで積み重ねてきた経験や、全国YMCAのネットワークを活かして支援にあたることができるのがYMCAの強みである、と改めて感じました。





シリーズ 資料室の窓から〈130〉
キャンプ地と私

本会元副総主事　齊藤　實

一九五三年の春。東京YMCAの職員となって五年目。日本YMCA主事認証を受けて四か月の新人・二十六才の私は木本茂三郎総主事から特命を受けた。

「東京から二時間以内で行けて、交通費と食費込み三泊四日で一千円以内の海浜キャンプを開け」という。大蔵省関東財務局横須賀出張所に日参して借受けたのが横須賀市「鴨居南門」の元・要塞地であった。その山裾で海岸寄りを借り受けて「観音崎海浜キャンプ」とした。

少年部選りすぐりのリーダーと荒れ地の草刈りから始めた昼夜のテント生活のひと夏を終えた私は、一九五四年四月には少年部主任主事に転じ、観音崎担当は離れて「野尻キャンプ」担当兼務となった。観音崎キャンプ新設を機に、個別であった委員会をまとめたキャンプ事業委員会の担当となり、ここでも新たな課題が与えられた。

それは、戦後もっぱら、長野彌（ながの・わたる）東洋英和女学院院長らによって指導されてきた少年長期キャンプ「野尻学荘」とそのキャンプ地の管理を、長野院長らの尽力に甘んじ続けず、「東京YMCAが所有し運営するものとして整備せよ」という。

野尻キャンプ地と施設は、戦時にその病室と施設を戦災で失い代替施設を求めていた財団法人（現・社会福祉法人）賛育会に譲渡していた。その買い戻しとキャンプ再開に尽力してきた長野院長らの働きに報いるYMCAの対処としてYMCAが所有し運営するものとして整備せよ」という。



野尻の湖岸

野尻キャンプ地と施設は、戦時にその病室と施設を戦災で失い代替施設を求めていた財団法人（現・社会福祉法人）賛育会に譲渡していた。その買い戻しとキャンプ再開に尽力してきた長野院長らの働きに報いるYMCAの対処として、これを実現した。また、野尻湖の湖水は東北電力（株）の発電用で水位が変動し、キャンプ地が浸食されていた。そこで、経費折半で堅固な護岸を完成させたのは一九五七年五月。七月には中部電力㈱に願い出てメインホールに電灯を灯した。行政による湖畔一周道路建設に際してはキャンプ地の真ん中を通る町道とキャンプ地内の「高天原」（たかまがはら）辺りを交換して、これを実現させた。一九五八年九月であった。

こうしたキャンプ体験を支えたもの、それは一九四七年夏、会員としてのキャンプ初参加での「私の新生」ではなかったか。当時の「山中キャンプ村長・原直治郎主事」に「キャンプの心」を学び得たことを私は忘れない。

被災地支援活動の報告会実施　10/2

10月2日、会員部主催で「熊本地震被災地支援報告会」が行われ、会員をはじめ関連団体の方やYMCA職員など40人がオンラインで参加しました。

報告会は、発災から今日まで継続して行ってきた支援活動を伝え、２ヵ月余り経過した被災地の「今」を知ってもらう機会として企画されたものです。

ユースボランティアリーダー加藤 璃璃子さんから、八代市（やつしろし）の小中学生を対象に実施したリフレッシュキャンプ「あおぞらキャンプ」（９月19日～21日、阿蘇キャンプ）の報告がありました。夏休みにできなかったことなどを中心にキャンプは進められましたが、事前にいろいろ考えていた心のケア以上に、特別なことではなく「ただ一緒にいて、寄り添うこと」の大切さを実感したと語られました。

続いて発災当初の８月17日～と9月5日～14日に２度赴いた中里敦さんと、9月11日～16日まで派遣された神宮寺はるかさんから支援活動の報告がありました。「日々経過していく中で、必要なことは変化しており、その時々での対応や判断が求められること」「他団体や全国のＹＭＣＡスタッフによる24時間体制の避難所運営では、それぞれが役割を担いながら、全員での情報共有が必須であること」など、具体的なサポート内容を示しながら話されました。

普段あまり関わりがない全国ＹＭＣＡの仲間同士でも、共通のＹＭＣＡマインドを持っているおかげで、同じ方向性での支援ができることに安心感を覚え、支援活動を一緒に進めていく力になりましたと語られました。

被災された方々と関わる中で、リーダーや職員は何を感じ、どのように過ごしてきたのか。これからどのような支援が必要なのか。報告会は、被災地の「今」を知り、私たちにできることを共に考える時間となりました。（広報室）

侍ジャパンU-18代表選手と交流

スポーツに親しみ、心身育む機会に

東京YMCAの保育施設で、「ふれあい運動あそび」を指導し、社会体育・保育専門学校でも講師を務めている、野村卓哉さん（株式会社Team Big Smiles代表）は一般社団法人日本野球機構（NPB）と連携した活動にも取り組んでいます。

女子野球選手の実地研修がYMCAの保育施設で行われたことをきっかけに、NPBと公益財団法人日本高等学校野球連盟によるプロジェクト「キッズファーストアクション」*が実現しました。

*高校球児が地域の保育園などで、野球あそび体験を通して子どもたちに体を動かす楽しさやおもしろさを伝え、子どもたちと高校生、双方の成長につなげることを目指す。



幼児体育指導講師
野村卓哉

8月31日、YMCAキャナルコート保育園の5歳児19人が、侍ジャパンU-18代表選手18人と交流しました。

初めは、お互いに緊張した様子でした。導入のハイタッチでは、選手たちが一斉に近づくと、驚いて一歩下がる子どももいました。



しかし、一度手を合わせると表情が和らぎ、笑顔が広がっていきました。そこで、普段の指導で大切にしているふれあいあそびの一つとして、「まるまるダンス」を取り入れました。

音楽に合わせて「手を握る」「顔を見合わせる」「手を合わせて動く」「手をつないで跳ぶ」等、自然にふれあえる動きを楽しみました。普段は緊張しやすい子どもも、選手と手をつなぎ、楽しそうにからだを動かしていました＝写真上。

その後、投げる、打つといった野球あそびを体験しました。投げ方の説明では、子どもと向かい合うと左右が反対に見えることまで意識し、分かりやすく実演する選手の姿が印象的でした＝写真左。子どもたちも、投げたり打ったりすることを楽しんでいました。

運動あそびは、動きを身につけるだけでなく、人と人との心の距離を縮め、関わる喜びを育みます。デジタル化が進む今だからこそ、直接ふれあい、いっしょにからだを動かす経験が大切です。

今回の出会いは、子どもたちがスポーツに親しみ、健やかな心とからだを育む機会となりました。これからもYMCA保育の中で、人とのつながりを感じられる運動あそびを大切にしていきたいと思います。



野の花、空の鳥

東京YMCA総主事
星野 太郎

気候正義

16歳の彼女の眼は怒りに満ちていました。“How dare you!―よくもそんなことを！”　2019年、国連の気候行動サミットでの、スェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんのスピーチです。世界の指導者を痛烈に叱責するという内容で、とても大きな反響を呼びました。そのスピーチで彼女が突き付けた問いを、私は今思い出しています。

ネパールと中国の国境地帯で起きた大規模な土石流は、言葉を失うほどの衝撃的なものでした。土石流の発端となった氷河の崩壊は、長期的な気温上昇によって引き起こされた可能性が指摘されています。未曽有の被害を受けたネパールでは温室効果ガスの主要排出国に責任を問う動きが出ています。原因を作った人と被害を受ける人が違う――グレタさんのスピーチが訴えた気候正義という考え方はこの不公正を指摘し、その代償を長く背負うことになるのです。グレタさんの“How dare you!”は、経済的な豊かさを追い求めてきた大人たちへの、若い世代からの厳しい問いでした。

今月、にほんご学院に入学予定だったネパールの留学生がいます。ビザ発給の嬉しい知らせを受けた直後、実家の農地を土石流によって失い、家族の生活再建のために入学を断念することになりました。この留学生の夢と計画を奪ったのは、単に土石流だったと考えるだけでよいのか、私たちは全く無関係だと言えるのか、考えさせられます。

VISION150の行動指針に掲げたとおり、子どもたちの未来のために環境を守る、これにしっかり向き合うことが強く求められています。日々の何気ない選択が、遠くに暮らす誰か、未来を生きる誰かの幸せにつながっていることを意識したいと思います。

社員ボランティアから学ぶ 見えないお金と信頼の秘密

芝浦学童クラブ



8月17日、芝浦学童クラブに通う子どもたちを対象に、Adyen Japan（アディエンジャパン）株式会社の社員ボランティアと「キャッシュレスの秘密～見えないお金を動かす『信頼』って～」を実施しました。昨年度からの取り組みで、今回は「お金の歴史」や「キャッシュレス決済の仕組み」を学びました。

特に印象的だったのは「お金は信頼によって成り立っている」というお話です。例えば1万円札を1万円の価値として使えるのは、社会全体で、そのお金の価値を信頼しているからです。

また、コンビニエンスストアでの商品購入やゲームアプリでの課金などで使えるキャッシュレス決済の便利さの一方で、家族であっても自分以外のクレジットカードを無断で使用してはいけないことなど、「信頼」の大切さについても学びました。

その後、お客さん・店員・サポートセンタースタッフの役割に分かれ、実際に模擬クレジットカードを使ったお買い物体験をしました＝写真。

店員役の子どもたちは行列を前に、自分たちで役割分担や作戦を考え、工夫して乗り切る場面もあり、社員ボランティアも「いいチームワークだね」と応援していました。

子どもたちからは「お金のことをあまり詳しく知らなかったけど知れてよかった」「来年もまたやってほしい」との感想がありました。

楽しみながらお金の仕組みを学ぶこのイベントが、人との関わりの中で「信頼」を考える機会にもなりました。

（芝浦学童クラブ　主任　沖津　桃）

小さなボランティア活躍 互いに思いやり知る経験に

オリーブ保育園



YMCAオリーブ保育園では、毎年夏休みに卒園児やその家族によるボランティア活動が行われています。今年は34人の小学生（3年～6年）と中学生・高校生（卒園児のほか、在園児の兄弟姉妹など）10人、総勢44人が参加。にぎやかな夏となりました。

一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせをしたりするほか、おもちゃの消毒やお昼寝のサポートまで、たくさんのお手伝いをしてくれました。小さい子に優しく接している姿に、このような体験が、どちらの子どもたちにとっても成長過程で大切な経験だと再認識しました。

ボランティアのほとんどが卒園児ということもあって、在園児に寄り添うその姿に、愛おしさと頼もしさを感じました。

「また来年も来ます！」と言い残した卒園児たち。ボランティアの夏が終わりました。

在園児が「いつか自分も！」と卒園児に憧れ、また園に戻ってきてくれる。そんな素敵な連鎖がこれからも続いていくことを願っています。

（聞き取り　広報室）



<YMCA/YWCA合同祈祷礼拝>

世界中のYMCAとYWCAが毎年11月（第二週）に、一つのテーマについて学び、共に考え、祈ります。
今年は以下の日程で礼拝の時をもちます。
どなたでもご参加できます。

日　時：11月12日（木）18：30～20：00
場　所：山手コミュニティーセンター１階ホール
テーマ：Called For Such A Time As This”
Leadership is influence, and everyone has it.
（このような時にあって、使命を与えられること～リーダーシップは影響力。それは誰もが持っている～）
説　教：吉髙　叶氏（NCC議長　日本バプテスト連盟市川八幡キリスト教会牧師）
参加費：無料
お申込：11/5（木）までに右記の二次元コードからお申し込み
＊礼拝のあと、懇親会を予定
主　催：東京YWCA・在日本韓国YMCA・東京YMCA

熊本地震2026 YMCA災害支援募金のお願い

熊本地震が発生してから2ヵ月あまり。今なお、避難所（熊本YMCAが委託運営）での生活を強いられている人が多くいます。東京YMCAは避難所の運営をサポートし、必要な人に必要な助けを届けるため支援活動を継続しています。

募金方法

【銀行振込】
三菱UFJ銀行　神保町支店（013）
普通　2304804
ザイ）トウキョウワイエムシイエイ
＊お名前の後に「クマモト」とお入れください。

【WEB募金】
クレジットカード決済
二次元コードを読み取り、お手続きください。

INFORMATION

■早天祈祷会（11月）■

会員による、聖書に基づくメッセージの後、皆で祈り、讃美歌を歌います。
クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日　時：2026年11月2日（月）
　　7：00～8：00
奨励者：土岐祥子氏
　　(公益財団法人東京YWCA総幹事)
会　場：山手センター／オンライン
問合せ：会員部（03-6278-9071）

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支えてくださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。

詳細はこちら

全国YMCAオンライン・チャリティーウォーク
みんなの一歩で子どもの笑顔を

インターナショナルチャリティーランの第40回を記念して、全国YMCAで行います。ウォーキングを皆で楽しみながら、支援を必要とする子どもたちの活動をサポートします。どなたでもご参加いただけます。

開催期間：11月29日（日）～12月13日（日）15日間
対　　象：スマートフォンをお持ちの方ならどなたでも
参 加 費：2,000円／人
申込・登録：10月15日（木）～11月29日（日）

スマホアプリ「スポーツタウンWALKER」のダウンロードが必要です（無料）

右記の二次元コードからお申し込みができます。

子どもたち200人が参加
全国YMCAサッカー交流会

8月19日～21日、時之栖スポーツセンター（静岡県裾野市）で、「全国YMCAサッカー交流会」が開催され、東京YMCAからは小学3年生～6年生35人、ボランティアリーダー7人が参加しました。サッカーを通して交流を深める目的で、奈良・神戸・名古屋・横浜・仙台など、全国のYMCAから200人を越える子どもたちが集まりました＝写真。



普段なかなか対戦できないチームとの試合では、思うようにいかない場面もありましたが、チームの仲間と声を掛け合いながら最後まで諦めずにプレーしました。

U-10の部では強豪チームとの熱戦を制し、小学4年生のチームが優勝することができました。日々の練習で積み重ねてきたことを大舞台で発揮し、仲間と喜びを分かち合う素晴らしい3日間となりました。

技術だけでなく、仲間との生活や交流を通して、多くのことを学べたと思います。この経験を、これからの活動にもつなげていければと考えています。

（江東幼稚園　富塚翔太）

第20回キッズデザイン賞に
「ホタル観賞会」@高等学院

YMCA高等学院が実施した地域異世代交流企画「ホタル観賞会」（6月19日実施）が、第20回キッズデザイン賞（子どもの参加・参画部門）を受賞しました。

小田原短期大学昆虫体験研究プロジェクトを中心に、東京YMCAをはじめ各関係機関が専門性を生かした活動を積み重ねてきたことが評価されたもので、昨年に続き2年連続の受賞となりました。

子どもたちが自然と出会い、その美しさや生命の不思議に心を動かされるような体験を通して、未来の環境について考えるきっかけとなることを願っています。

KIDS DESIGN AWARD 2026

都内各所で街頭募金を

熊本地震被災地支援のための「緊急支援募金」では、より多くの人に協力を呼びかけるため、各所で街頭募金を行いました。

発災から間もない8月4日から、高田馬場駅周辺をはじめ都内5か所で実施し、街頭募金の合計は43万6305円となりました。



東京駅丸の内北口で

今後も東京YMCAは被災地に寄り添った支援を続け、皆さまのご厚意をその活動のために用いさせていただきます。

東京YMCAメルマガ登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けします。月1～2回の不定期配信。

登録はこちら

東京YMCA公式SNS

Instagram
https://www.instagram.com/tokyoymca/

x（旧Twitter）
https://x.com/Tokyo_YMCA

Facebook
https://www.facebook.com/tokyoymca

豊かな福祉社会を創るために

―私たちが今、できること―

公益財団法人愛恵福祉支援財団と共催し、「愛恵エッセイ」（第28回）を募集します。

締切 11/13（金）必着

【対象】：学生の部　専門職の部
一般の部　外国籍の部※
※日本で就労、就学中の方
【字数】：1,600 ～ 2,000字
（※400～2,000字）
【応募方法】：原則、電子メールに添付で応募（メールでの送付が困難な場合は応募用紙+原稿を郵送）
【締切】：2026年11月13日（金）必着
【問い合わせ】
東京YMCA会員部内
「エッセイ募集係」
詳細は、オフィシャルHPをご覧ください。

冬のキャンプ・スクールへGO

短期英語スクール

冬も英語にふれてみる

お申し込み開始
10月20日（火）
12時30分スタート



キャンプ

冬の自然を体験　スキーも

お申し込み開始
10月22日（木）
12時30分スタート



短期水泳教室 プールスクール

冬のプールで元気に

お申し込み開始
11月4日（水）
12時30分スタート

